

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究 13	公益目的事業 19
主査名	井原健雄 香川大学名誉教授	
研究テーマ	住民ファーストの「地域公共交通計画」の策定と評価 —四国地域における個別具体の事例を踏まえて—	

研究の目的：

地方都市における交通問題の実証的な調査研究を行うとともに、とりわけ政策志向の観点から、「地方自治体」を含む広義の「運輸行政」のあり方として、その意義と役割を検証することにより、「住民の」「住民による」「住民のための」地域公共交通の実現を目指し、有意な知見の導出とその活用を図ろうとすることにある。そこで、地域住民の暮らしを念頭に置いた“血の通った”計画策定とその実行のために、地域公共交通に関わるより広範多岐にわたる政策主体が、それぞれ主体的に本来の役割を果たしながら、互いに協力と連携を行うためにはどのような創意と工夫が必要であるのか、ということについての〈問題意識の共有化〉を図り、有意な方途についての検討を試みるものである。

研究の経過（4月～3月）：

〈事前の連絡調整〉

8/19(日)および10/19（金）に、本研究プロジェクトメンバーの有志により、当該研究プロジェクトを進めるに当たっての意見交換と事前調整を、サンポートホール高松（67 会議室）で開催した。とりわけ、10/19（金）には、本年度報告書の取り纏めの方向性および役割分担等について協議をした。これまでの研究成果を受けて、地域規模が大きくトリップ特性が多様な自治体では、需要者目線に立った“住民ファースト”を実現するための仕組みや運用等に課題があること、さらに、これまで継続して着目してきた“二層の Principal-Agent 関係”は明確かつ端的な構造ではあるものの、利用者やトリップ特性の多様性を組み込み、拡張を図る必要性があるとの指摘がなされた。

〈研究会〉

12/22（土）に、サンポートホール高松（55 会議室）で、執筆の目次案を提示したうえで、研究の方向性に関する議論が交わされ、メンバーの相互理解の深化に努めるとともに、執筆担当を検討した。

3/21（木・祝）に、サンポートホール高松（53 会議室）で、自由討議と質疑応答が行われるとともに、「最終報告書」作成の方向づけが話し合われた。

研究の成果（自己評価含む）：

本研究では、地域規模が大きい自治体における交通計画は、利用者属性やトリップ特性が多様なことも相まって、利用者を具体的に見据えた計画ではなく、平均値的な計画とならざるを得ず、その結果として、計画目的の達成度である「アウトカム」よりも、手段の達成度である「アウトプット」に焦点を当てたものになっていることが指摘された。また、行政機構についても、交通の専門家が育ちにくい人事システム等に課題があることが指摘された。

今後の課題：

本研究では、「住民の」「住民による」「住民のための」地域公共交通を実現するために、これまで継続して着目してきた“二層の Principal-Agent 関係”についてその拡張を試みたが、その関係をより一層効果的に機能させるしくみについては、さらなる検討を行う必要がある。